

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み: 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育実践

A report of Olympic and Paralympic education in WASEDA Research Center for Olympic and Paralympic Education: Focusing on the practice of Olympic and Paralympic education in elementary school, junior high school, high school, and school for special needs

友添秀則¹⁾, 深見英一郎²⁾, 吉永武史³⁾, 岡田悠佑⁴⁾, 根本想⁵⁾, 竹村瑞穂⁶⁾, 小野雄大⁷⁾,
青木彩菜⁸⁾, 鈴木康介⁹⁾

^{1), 2), 3), 4), 7), 8)} 早稲田大学スポーツ科学学術院

⁵⁾ 早稲田大学スポーツ科学研究センター

⁶⁾ 日本福祉大学スポーツ科学部

⁹⁾ 中部学院大学スポーツ健康科学部

Hidenori Tomozoe¹⁾, Eiichiro Fukami²⁾, Takeshi Yoshinaga³⁾, Yusuke Okada⁴⁾, So Nemoto⁵⁾,
Mizuho Takemura⁶⁾, Yuta Ono⁷⁾, Ayana Aoki⁸⁾, Kousuke Suzuki⁹⁾

^{1), 2), 3), 4), 7), 8)} Faculty of Sport Sciences, Waseda University

⁵⁾ Waseda Institute for Sport Sciences

⁶⁾ Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

⁹⁾ Faculty of Sports and Health Science, Chubu Gakuin University

キーワード: スポーツ庁, オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業,
オリンピック, パラリンピアン

Key words: JAPAN SPORTS AGENCY, Olympic and Paralympic Empowerment,
Olympian, Paralympian

【抄 録】

スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて、2016 (平成 28) 年 7 月 29 日付で早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター (以下、「早大オリ・パラセンター」) が発足した。平成 28 年度における早大オリ・パラセンターは、岩手県、広島県、熊本県の各教育委員会および各学校と連携して事業をすすめた。

そこで、本稿では、早大オリ・パラセンターが平成 28 年度に行った小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育事業を紹介することを目的とした。日本では、これまで東京 (1964 年)、札幌 (1972 年)、長野 (1998 年) と計 3 回 (夏季 1 回、冬季 2 回) のオリンピック大会、また、札幌を除く計 2 回 (夏季 1 回、冬季 1 回) のパラリンピック大会を開催している。そして、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、夏季大会としては、前回の東京大会以来、56 年ぶりの自国開催となる。本稿において、研究資料という形で、早大オリ・パラセンターの事業を報告することは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国のオリンピック・パラリンピック教育の展開を振り返る際の貴重な資料となる点に意義があると考えた。

実践校は計 30 校 (小学校 10 校、中学校 8 校、高等学校 11 校、特別支援学校 1 校) で、オリンピック・パラリンピアンへの派遣は、オリンピックが計 22 校 (小学校 8 校、中学校 4 校、高等学校 10 校)、パラリンピアンが計 8 校 (小学校 2 校、中学校 4 校、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校) であった。児童、生徒たちは、オリンピック・パラリンピアンへの講義や実技指導に積極的に参加していた。そのため、アンケート

ートではオリンピック・パラリンピック, さらにはスポーツへの理解や関心の高まりが見られた。また, オリンピアン・パラリンピアンの講義を通して学んだことを, 自分のこれからの生活で生かしていこうという意志が読み取れるコメントや, 障がい者への理解の深まりや仲間の重要性の認識などが読み取れるコメントも見られた。

スポーツ科学研究, 15, 1-16, 2018 年, 受付日:2017 年 7 月 27 日, 受理日:2018 年 1 月 22 日

連絡先:友添秀則 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

tomozoe@waseda.jp

I. 緒言

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター(以下,「早大オリ・パラセンター」)は, 2016(平成 28)年 7 月にスポーツ庁の委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受けて発足した。そして, 平成 28 年度は, 岩手県, 広島県, 熊本県の教育委員会等と連携して事業を進めていくこととなった。平成 28 年度における早大オリ・パラセンターの事業は, 授業実践と授業実践以外(組織作り, 教員セミナー・ワークショップ, 市民フォーラム)に集約できる注 1)。

本稿では, 平成 28 年度に実施した小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校のオリンピック・パラリンピック教育(以下,「オリ・パラ教育」)の実践を紹介する。本事業も含め, 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたオリ・パラ教育に関する活動が盛んに行なわれるようになる中で, 日本のオリ・パラ教育の実践報告が行なわれるようになってきた注 2)。2016 年に文部科学省より出された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの

審議のまとめ」の中で, オリンピック・パラリンピックに関する指導について明記された注 3)こともあり, 今後さらにオリ・パラ教育への関心は高まっていくことが予想される中で, オリ・パラ教育の実践報告は重要な意義があると考ええる。

以上より, 本稿において, 研究資料という形で, 早大オリ・パラセンターの事業の中の実践を中心に報告することは, 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国のオリ・パラ教育の展開を振り返る際の貴重な資料となること以上に, 今後さらに盛んに行なわれていくことが予想されるオリ・パラ教育の実践の手がかりを示しうる点に意義があると考えた。なお, 本稿は早大オリ・パラセンター(2016)に, より詳細な記述や考察を加えたものである。

II. オリンピック・パラリンピック教育の実践

1. 実施概要

オリ・パラ教育の実践を行った小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校を整理すると, 以下の通りである注 4)(表 1)。

表 1:オリンピック・パラリンピック教育実施校一覧(小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校)(敬称略)

校種	県名	学校名	実施日	派遣オリンピック・パラリンピアン	出場大会
小学校	岩手	山田町立山田南小学校	2017/1/26	平瀬智行(サッカー)	第 27 回シドニー
		二戸市立福岡小学校	2017/2/21	山本隆弘(バレーボール)	第 29 回北京
	熊本	熊本市立白山小学校	2016/9/8	伊藤華英(競泳)	第 29 回北京 第 30 回ロンドン
		菊陽町立菊陽中部小学	2017/1/17	副島正純(車いすマラソン)	第 12 回アテネ 第 13 回北京 第 14 回ロンドン 第 15 回リオデジャネイロ
		小国町立小国小学校	2017/1/31	勅使川原郁恵	第 18 回長野

				(ショートトラックスピードスケー	第 19 回ソルトレイクシテ 第 20 回トリノ
		熊本市立北部東小学校	2017/2/1	勅使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケー	第 18 回長野 第 19 回ソルトレイクシテ 第 20 回トリノ
		熊本市立長嶺小学校	2017/2/8	廣瀬誠(視覚障害者柔道)	第 12 回アテネ 第 13 回北京 第 14 回ロンドン 第 15 回リオデジャネイロ
		熊本市立力合西小学校	2017/2/9	高橋千恵美(陸上競技)	第 27 回シドニー
		熊本市立白坪小学校	2017/2/10	高橋千恵美(陸上競技)	第 27 回シドニー
		水俣市立袋小学校	2017/2/21	勅使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケー	第 18 回長野 第 19 回ソルトレイクシテ 第 20 回トリノ
中 学 校	岩手	盛岡市立松園中学校	2016/12/13	横澤高德(チェアスキー)	第 10 回バンクーバー
	熊 本	宇土市立鶴城中学校	2017/2/6	川上優子(陸上競技)	第 26 回アトランタ 第 27 回シドニー
		八代市立第一中学校	2017/2/7	廣瀬誠(視覚障害者柔道)	第 12 回アテネ 第 13 回北京 第 14 回ロンドン 第 15 回リオデジャネイロ
		あさぎり町立あさぎり中学	2017/2/13	花岡伸和(車いすマラソン)	第 12 回アテネ 第 14 回ロンドン
		山鹿市立山鹿中学校	2017/2/14	花岡伸和(車いすマラソン)	第 12 回アテネ 第 14 回ロンドン
		熊本市立長嶺中学校	2017/2/22	大谷佐知子(バレーボール)	第 23 回ロサンゼルス
		南関町立南関中学校	2017/2/23	山本洋祐(柔道)	第 24 回ソウル
		天草市立本渡中学校	2017/2/23	秋山エリカ(新体操)	第 23 回ロサンゼルス 第 24 回ソウル
高 等 学 校	岩手	岩手県立盛岡南高等学	2017/2/2	千田健太(フェンシング)	第 30 回ロンドン
	広 島	広島県立三次高等学校	2016/12/2	星奈津美(競泳)	第 30 回ロンドン 第 31 回リオデジャネイロ
		広島県立福山葦陽高等	2016/12/7	青木愛(シンクロナイズドスイミ	第 29 回北京
		広島県立湯来南高等学	2017/1/12	岩崎恭子(競泳)	第 25 回バルセロナ
		広島県立五日市高等学	2017/1/20	山本隆弘(バレーボール)	第 29 回北京
		広島県立神辺旭高等学	2017/1/24	齋藤信治(バレーボール)	第 29 回北京
		広島県立世羅高等学校	2017/1/24	大山加奈(バレーボール)	第 28 回アテネ
		広島県立尾道商業高等	2017/1/25	大山加奈(バレーボール)	第 28 回アテネ
		広島県立広島皆実高等	2017/1/26	市橋有里(陸上競技)	第 27 回シドニー
	熊 本	熊本県立鹿本高等学校	2017/2/22	副島正純(車いすマラソン)	第 12 回アテネ 第 13 回北京 第 14 回ロンドン 第 15 回リオデジャネイロ
熊本県立八代東高等学		2017/2/22	勅使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケー	第 18 回長野 第 19 回ソルトレイクシテ 第 20 回トリノ	
特 支	熊 本	熊本県立盲学校	2017/3/3	小宮正江(ゴールボール)	第 12 回アテネ 第 14 回ロンドン
				浦田理恵(ゴールボール)	第 14 回ロンドン

また、授業実施後にオリ・パラ教育の児童・生徒への影響を調査するために、以下のアンケートを実施した(図 1, 図 2)。なお、アンケート項目に

関しては、内閣府が 2015 年に実施した「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」をもとに作成した。

オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート
()年()組 (男・女)

今日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。(それぞれ1つ選んでください。)

1 2020 年 東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

2 オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

3 2020 年 東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを 1 つ選んでください。

試合会場に行っておうえんしたい
スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい
自分の家のテレビなどでおうえんしたい
テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない
おうえんしない

4 スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすると思えますか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

5 これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

6 今日の授業に対する意見や感そうを書いてください。

図 1: オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート(小学校・特支学校用)

オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート

(中学校・高等学校)

()年()組 (男・女)

本日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。(それぞれ1つ選んで下さい)

1 2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

2 オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

3 2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

- 試合会場に行って観戦したい
- パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい
- 自宅のテレビなどで観戦したい
- テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない
- 関心があまりない

4 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

5 スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか。

非常にそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

6 本日の授業に対するご意見、感想を書いてください。

図 2: オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート(中学校・高等学校用)

2. 授業内容

次に、各校で実施したオリンピック・パラリンピアンによる授業の内容を整理する。なお、オリンピック・パラリンピアン講義の内容に関しては、事前にオリ・パラへの参加を通して感じたことを中心に話をしてもらうように要望した。

2. 1. オリンピアンによる授業実践の内容

オリンピックによって行われた授業の内容を講義と実技にわけて整理すると、以下の通りである(表 2)。

表 2: オリンピアン講義内容・実技指導内容一覧

校種	地域	実施校	派遣オリンピック	講義内容	実技指導内容	
小学校	岩手	山田南小学校	平瀬智行 (サッカー)	・サッカーを始めた契機 ・日本代表になるまでの努力 ・夢をもつことの大切さ ・日々努力することの大切さ	サッカー	
		福岡小学校	山本隆弘 (バレーボール)	・バレーボールを始めた契機 ・オリンピック出場までの努力 ・目標をもつことの大切さ ・努力を続けることの大切さ ・目標を達成するための周囲の協力の重要性	バレーボール	
	熊本	白山小学校	伊藤華英(競泳)	・水泳を始めた契機 ・オリンピック出場までの努力 ・周囲で応援してくれる人への感謝の大切さ ・目標をもつことの大切さ	水泳	
		小国小学校	勅使川原郁恵 (ショートトラック スピードスケート)	・スケート競技について ・オリンピック出場までの努力 ・夢を持ち続けることの大切さ、	ウォーキング	
		北部東小学校	勅使川原郁恵 (ショートトラック スピードスケート)	・スケート競技について ・オリンピック出場までの努力 ・「自分に勝つ」という気持ちを持つことの大切さ ・「好き」という気持ちをもつことの大切さ ・夢を持ち続けることの大切さ	ウォーキング	
		力合西小学校	高橋千恵美 (陸上競技)	・陸上を始めた契機 ・オリンピック出場までの努力 ・自分ならできると信じて諦めないことの大切さ	ランニング	
		白坪小学校	高橋千恵美 (陸上競技)	・陸上を始めた契機 ・オリンピック出場までの努力 ・健康推進のための方法 ・夢をもつことの大切さ ・自分ならできると信じて諦めないことの大切さ	ランニング	
		袋小学校	勅使川原郁恵 (ショートトラック スピードスケート)	・オリンピック出場までの努力 ・努力を続けることの大切さ ・スピードスケートについて ・世界大会に出ると世界中の人と仲良くなれるこ	ウォーキング	
	中学校	熊本	鶴城中学校	川上優子 (陸上競技)	・挑戦することの大切さ ・夢を実現するために主体的に考えて行動する ・自分ならできると信じて諦めないことの大切さ	なし
			長嶺中学校	大谷佐知子 (バレーボール)	・オリンピック出場までの努力 ・引退後のバレーボールの指導 ・自分の好きなものを見つけることの大切さ	バレーボール

				<ul style="list-style-type: none"> ・努力を続けることの大切さ ・相手を思いやることの大切さ 		
		南関中学校	山本洋祐 (柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えることの大切さ ・オリンピック出場までの努力 ・目標を持つことの大切さ ・努力を続けることの大切さ 	柔道	
		本渡中学校	秋山エリカ (新体操)	<ul style="list-style-type: none"> ・新体操を始めた経緯 ・オリンピック出場までの努力 ・失敗を恐れずに挑戦することの大切さ 	新体操	
高等学校	岩手	盛岡南高等学校	千田健太 (フェンシング)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェンシングについて ・フェンシングを始めるまでの経緯 ・オリンピック出場までの努力 ・一つ一つの勝敗を成長につなげていくことの 	フェンシング	
		三次高等学校	星奈津美 (競泳)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・自分に負けない気持ちの大切さ ・感謝の気持ちをもつことの大切さ ・謙虚な姿勢で努力を続けることの大切さ ・夢を持ち続けることの大切さ 	なし	
		葦陽高等学校	青木愛 (シンクロナイズド スイミング)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・苦しいことがあっても頑張ることの大切さ ・周囲の人の支えの大切さ 	なし	
		湯来南高等学校	岩崎恭子 (競泳)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・目標を持って努力することの大切さ ・自分から行動することの大切さ 	なし	
		五日市高等学校	山本隆弘 (バレーボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・自分で目標をたてることの大切さ ・大事な場面で自分にとって良い選択をしていく 	なし	
		神辺旭高等学校	齋藤信治 (バレーボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・感謝の気持ちをもつことの大切さ ・諦めずに努力を続けることの大切さ 	なし	
		世羅高等学校	大山加奈 (バレーボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・仲間を思いやることの大切さ ・仲間のために頑張ることの大切さ 	バレーボール	
		尾道商業高等学校	大山加奈 (バレーボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・仲間を思いやることの大切さ ・仲間のために頑張ることの大切さ 	バレーボール	
		広島皆実高等学校	市橋有里 (陸上競技)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場までの努力 ・努力を継続することの大切さ ・自らの環境を生かして取り組むことの大切さ 	ランニング	
		熊本	八代東高等学校	勅使川原郁恵 (ショートトラック スピードスケート)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケート競技について ・オリンピック出場までの努力 ・夢を持ち続けることの大切さ ・試合に向けたスケジュール管理の重要性 	なし

表 2 からわかる通り、オリンピックの講義は、競技を始めた契機やオリンピック出場までの努力について自らの経験に基づいた話が中心であった。また、オリンピック出場までの経験を振り返りなが

ら、夢をもつことの大切さ、自信をもつことの大切さ、さらには努力を継続することの大切さなどもお話しいただいた。

2. 2. パラリンピアンによる授業実践の内容 内容を講義と実技にわけて整理すると、以下の通りである(表 3).
 続いて、パラリンピアンによって行われた授業の

表 3: パラリンピアン講義内容・実技指導内容一覧

校種	地域	実施校	派遣パラリンピアン	講義内容	実技指導内容
小学校	熊本	菊陽中部小学校	副島正純 (車いすマラソン)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを負って受け入れるまでの経緯 ・車いすマラソンを始めた契機 ・パラリンピック出場までの努力 ・目標をもつことの大切さ ・頑張ることが自信につながる ・頑張ることの楽しさ 	車いすの操作
		長嶺小学校	廣瀬誠 (視覚障害者柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックのメダルについて ・好きなことを継続していくことの大切さ ・規則正しい生活をするための大切さ ・感謝の気持ちをもつことの大切さ 	柔道
中学校	岩手	松園中学校	横澤高德 (チェアスキー)	<ul style="list-style-type: none"> ・チェアスキーを始めるまでの経緯 ・ポジティブに考えることの大切さ ・周囲で応援してくれる人への感謝の大切さ ・日々努力することの大切さ 	スポーツ用車いす
	熊本	第一中学校	廣瀬誠 (柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道を始めるまでの経緯 ・感謝することの大切さ ・挑戦することの大切さ ・努力を続けることの大切さ ・自分を大切にすることの大切さ 	なし
		あさぎり中学校	花岡伸和 (車いすマラソン)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすマラソンを始めるまでの経緯 ・パラリンピックで入賞するまでの努力 ・自己肯定感を高めることの大切さ 	なし
		山鹿中学校	花岡伸和 (車いすマラソン)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすマラソンを始めるまでの経緯 ・パラリンピックで入賞するまでの努力 ・自己肯定感を高めることの大切さ 	なし
高等学校	熊本	鹿本高等学校	副島正純 (車イスマラソン)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを負って受け入れるまでの経緯 ・車いすマラソンを始めた契機 ・パラリンピック出場までの努力 ・目標をもつことの大切さ 	なし
特支学校	熊本	県立盲学校	小宮正江 浦田理恵 (ゴールボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールを始めた経緯 ・困難な状況こそ成長の機会になる ・失敗から学ぶ姿勢の大切さ ・挑戦することの大切さ 	ゴールボール

表 3 からわかる通り、パラリンピアンは、障がいを負った経緯や競技を始めた契機について自らの経験に基づいた話が中心であった。また、オリンピックの講義と異なる点として、パラリンピッ

ク出場までの経験を振り返りながら、目標をもつことの大切さや頑張ることが自信につながるだけでなく、頑張ることの楽しさや自己肯定感を高めることの大切さなどもお話いただいた。

Ⅲ. 成果

最後に、授業実践の成果として、授業実践終了後に児童・生徒に実施したアンケート結果を質問項目ごとに紹介したい(総回答数 8,163 名:小

学校 1,475 名, 中学校 2,805 名, 高等学校 3,872 名, 特別支援学校 11 名)。

① 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか(図 3)

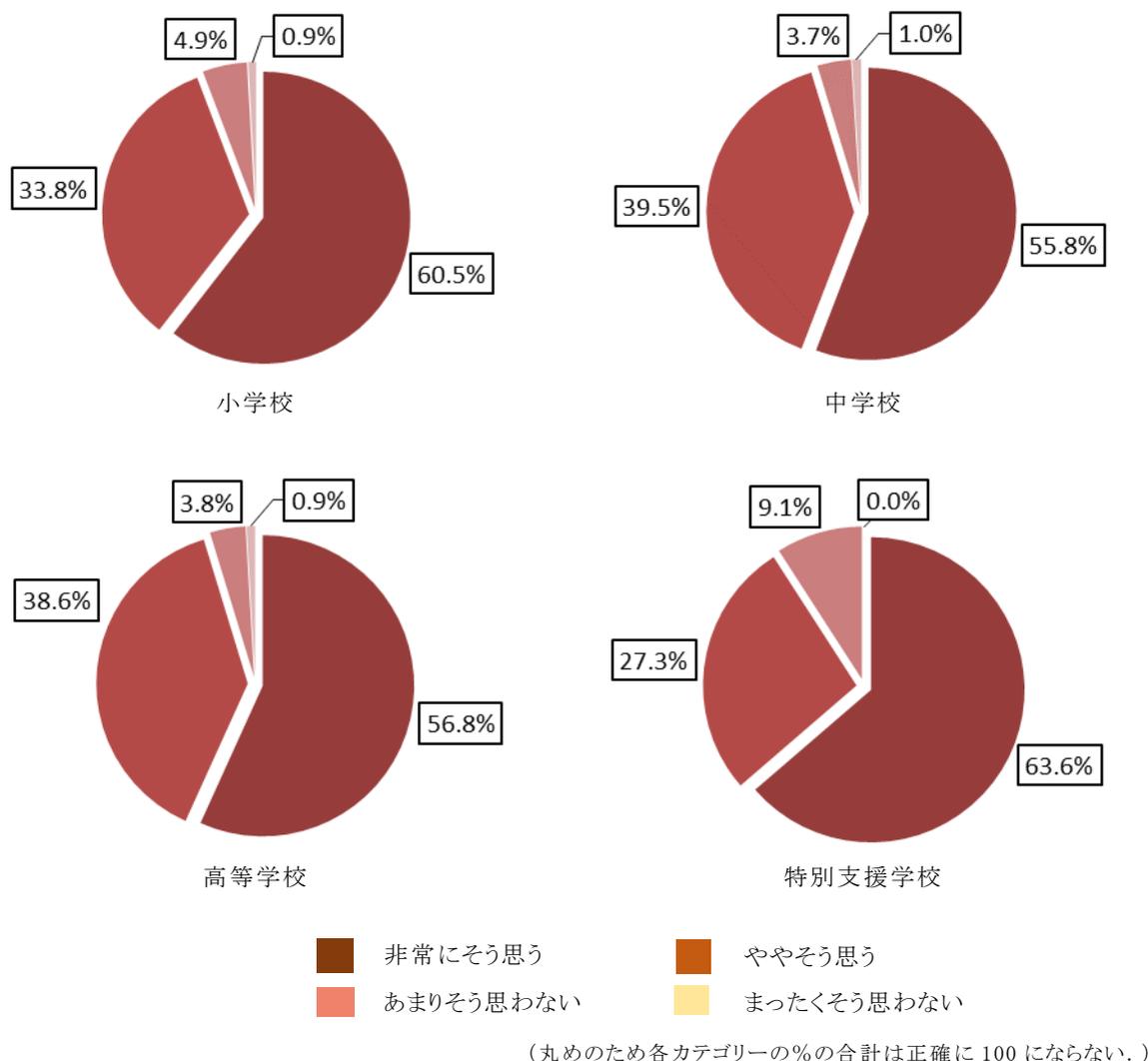


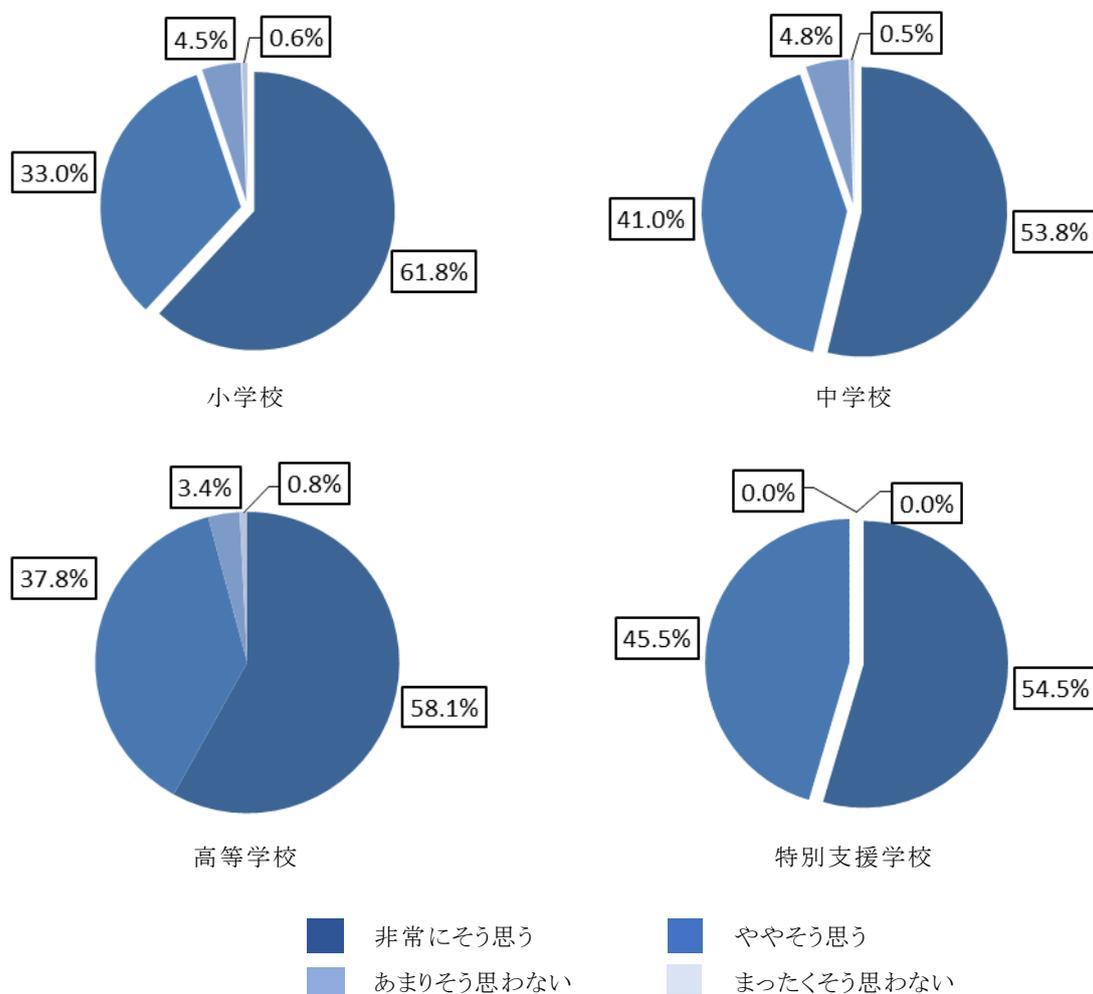
図 3: 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まったか

図 3 の通り、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・関心が高まった、もしくはやや高まったという児童・生徒は小学校で 94.3%、中学校で 95.3%、高等学校で 95.4%、特別支援学校で 90.9%であった。自由記述においても、「はじめは、オリンピックにはぜんぜん興味がなかったけど、今日、お話を聞いて、テレビで見ようと思った」、「パラリンピックを見たい」、「2020 年は普段見られない競技にも注目をして

観戦したい」、「自分で努力するということで夢は叶うということがわかりました。栄養や食事もトレーニングと聞いてびっくりしました」、「東京オリンピックでは会場で見たいと思います」、「オリンピック・パラリンピックには私はあまり興味がなかったのですが、今日の話聞いて、東京である時はテレビなどで見てみようと思いました」、「スポーツには関心がなかったけど、スポーツは苦手でも応援することはできると思いました」などのように、オリンピ

ン・パラリンピアンを講義を通して、2020 年東京オリンピック・パラリンピックへの興味をもったという主旨のコメントが挙げられた。

② オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか(図 3)



(丸めのため各カテゴリーの%の合計は正確に 100 にならない.)

図 4: オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まったか

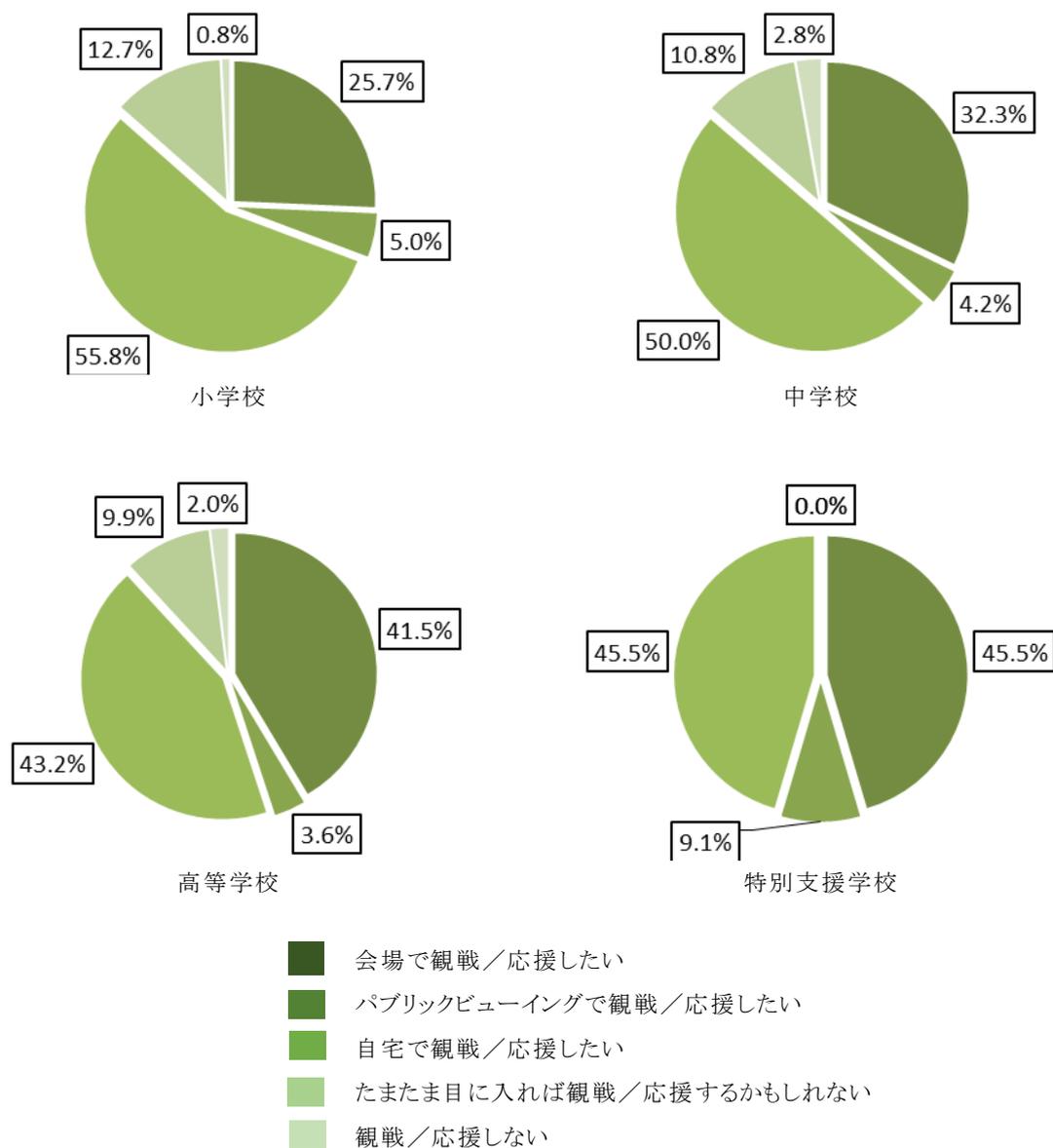
図 4 の通り、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会やスポーツの意味や大切さに対する理解・関心に関しては、高まった、もしくはやや高まったという児童・生徒は小学校で 94.8%、中学校で 94.8%、高等学校で 95.9%、特別支援学校で 100%であった。自由記述においては、「人に勝とうじゃなくて、自分に勝とうという気持ちは私にはなかったの、そのようなことをいかしたいと思います」、「これからも相手に勝つことではなく、自分の気持ちに勝つことをがんばりたいです」というようなオリンピック・パラリンピアンがオリンピック・パラリンピックを目指す過程で感じたことに対して共感を

示すコメントが多く見られた。また、パラリンピアンを講義を通して「足を自由に動かさなくなって、心に深い傷を負ったのに、車いす生活を自分の短所ではなく長所として受け止めて目標などを達成するために頑張っているのがすごいと思った。障がいを持って自分の未来は切り開けるんだと思った」、「障がいをもっている人は運動ができないと思っていたけど、廣瀬さんのお話を聞いてイメージが変わりました」というように、障がい者に対する理解の深まりや「やっぱり、スポーツは色々な人の支え合いなどで成り立っているのだと思いました」というように、スポーツの価値を再認識するコメ

ントも見られた。さらに、「何事もあたりまえと思わずに、今学校に行くことができるのも、私が好きなダンスができるのも『ありがとう』なんだなあと改めて実感しました」、「私は、すぐ諦めたり、最後までや

り通さないことがあるので、選手の事を見習って、諦めないことを大切にしようと思いました」などのように、自分の見方や行動を変えていこうという意味表示も見られた。

③ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか (図 5)



(丸めのため各カテゴリーの%の合計は正確に 100 にならない.)

図 5: 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会の応援をどのようにしたいか

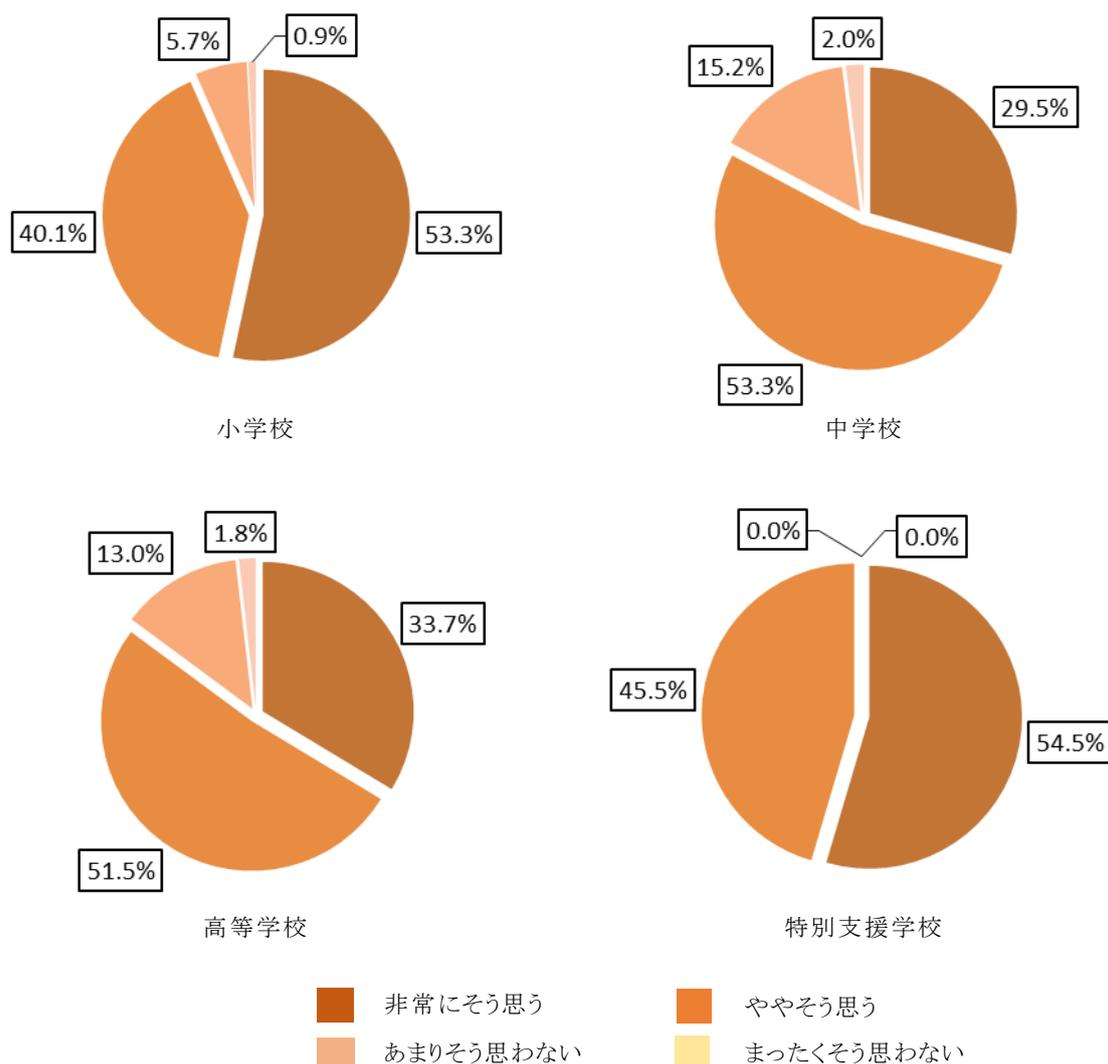
図5の通り、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会の観戦及び応援に関しては、会場での観戦及び応援が小学校で 25.7%、中学校で 32.3%、高等学校で 41.5%、特別支援学校で

45.5%、パブリックビューイングでの観戦及び応援が小学校で 5.0%、中学校で 4.2%、高等学校で 3.6%、特別支援学校で 9.1%、さらには自宅での観戦及び応援が小学校で 55.8%、中学校で

50.0%, 高等学校で 43.2%, 特別支援学校で 45.5%であり, 応援及び観戦に積極的な児童・生徒は小学校で 86.5%, 中学校で 86.5%, 高等学校で 88.3%, 特別支援学校で 100%であった. 自由記述においては, 「ショートトラックを観戦してみたと思った」, 「東京オリンピックでは会場で見た

いと思います」というように実際に現地で観戦をしたいというコメントや, 「実際にオリンピックを見に行くのは少し難しいけれど, せめて, テレビで応援しようと思います」というようにテレビで見たいというようなコメントが挙げられた.

④ スポーツをすることで, 自分で考えて行動することができたり, 親しい友だちをつくったりすることができますか(図 6)



(丸めのため各カテゴリーの%の合計は正確に 100 にならない.)

図 6: スポーツをすることが自分で考えて行動することや新しい友だちづくりに役立つか

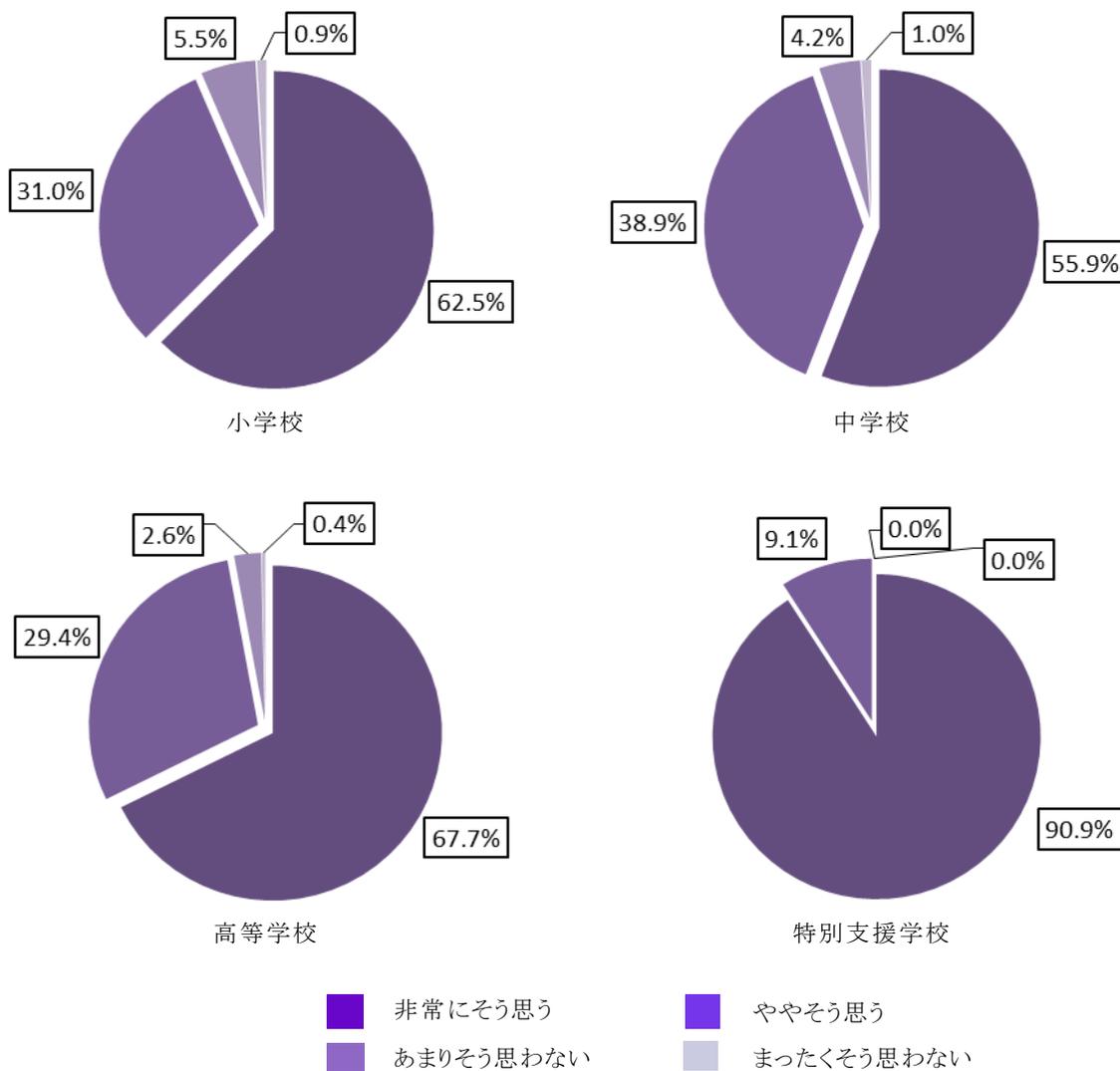
図 6 の通り, スポーツをすることで, 自分で考えて行動したり交友関係を広げたりすることができると思う, もしくはややできると思うという児童・生徒は小学校で 93.4%, 中学校で 82.8%, 高等学校で 85.2%, 特別支援学校で 100%であった. 自由記述においては, 「オリンピックに出ている方々の

がんばっている姿を見て学んでいこうと思いました」, 「相手のために自分から行動するということを学んで, 自分はまだまだできていないと思いました. 私は文化部だけど, 自分から積極的に行動できることはたくさんあるので, 部活や日々の生活に生かしていきたいです」というように, オリンピアン・

パラリンピアンから学ぼうという気持ちになった児童や、「努力すれば必ず夢は叶うという大切なことを学んだ」、「夢を持つことの大切さを学んだ」、「自分も努力を惜しまずに頑張りたい」、「文武両道を目指してがんばりたい」というように、スポーツをすることでオリンピック・パラリンピアンが学

んだことに共感するコメントが見られた。また、「仲間がいないと、大変だし、できないことがあると分かり、私もこれからは、こまっている人などを助けていけたらいいなあと思います」というように、スポーツには仲間が必要であることを理解し、仲間の重要性を認識したコメントも見られた。

④ これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか(図 7)



(丸めのため各カテゴリーの%の合計は正確に 100 にならない.)

図 7: 今後、障がい者と一緒に積極的にスポーツに参加したいか

図 7 の通り、これからの人生において、障がい者の人達と一緒にスポーツに積極的に参加したい、もしくはやや参加したいという児童・生徒は小学校で 93.5%、中学校で 94.8%、高等学校で 97.1%、特別支援学校 100%であった。自由記述においては、「男子ソフトテニス部のキャプテンとして、これからは、恥をかくことを恐れずにガムシ

ャラに部活に取り組もうと思いました」、「大谷さんのように約 1 年半の間に練習をぎっしり行い、日本代表になるということはできないかもしれないけど、身近にふれあえるスポーツで熱中できるものを見つけ、どんどん自分の趣味、特技の世界を広げていきたいです」というようにスポーツに積極的に取り組みたいという気持ちを見て取れるコメント

や、「自分も毎朝走って登校しようと思った」、「今日は、楽に走れる方法などが分かったので、ちょっと走るのが好きになりました。これから長距離を走る機会があったら、今日のことを生かして楽しく走りたいです」、「スポーツに興味はなかったけど、何か自分もスポーツをやってもよと思った」というようにこれからスポーツをやってみようというコメントが見られた。また、「障がい者と一緒にスポーツをして仲良くなる場所が作ればいいと思った」、「車いすに乗っている人や障がいを持った人がすごい努力をしていることが分かった。だからこそ、その人たちを励ましたり、力を貸してあげたりしてはならないと思った」、「スポーツは苦手だけど、障がい者と一緒にスポーツをしたいと思いました。私も諦めないでがんばろうと思います」というように、障がい者と一緒にスポーツを楽しみたいというコメントも見られた。さらには、上述のようにスポーツをするという関わりだけでなく、「スピードスケートショートトラックについて調べてみたいと思いました」というように、スポーツについて知るという形で関わっていききたいというコメントも見られた。

IV. まとめ

本稿では、平成 28 年度の早大オリ・パラセンターの事業の中で、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の授業実践を紹介した。実践校は計 30 校(小学校 10 校, 中学校 8 校, 高等学校 11 校, 特別支援学校 1 校)で、オリンピック・パラリンピアンへの派遣は、オリンピックが計 22 校(小学校 8 校, 中学校 4 校, 高等学校 10 校), パラリンピアンが計 8 校(小学校 2 校, 中学校 4 校, 高等学校 1 校, 特別支援学校 1 校)であった。児童・生徒たちは、オリンピック・パラリンピアンへの講義や実技指導に積極的に参加していた。アンケートではオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツへの理解や関心の高まりが見られた。また、オリンピック・パラリンピアンへの講義を通して学んだことを、自分のこれからの生活で生かしていこうという意志が読み取れるコメントや、障がい者への理解の深まりや仲間の重要性の認識など

が読み取れるコメントも見られた。

しかし、本稿で取り上げた平成 28 年度の実践数は 30 校分に留まっており、校種のばらつきもあり、この結果から学校種別やオリンピック・パラリンピック別に基づく効果の違いなどを考察し、今後のオリ・パラ教育への示唆を得るのはやや早合点である。今後、オリ・パラ教育の充実に向けて更なる実践データの積み重ねと分析が必要になる。今後の課題としたい。

付記

本研究は、平成 28 年度「スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」(代表友添秀則)を受けて行った。

注

- 1) スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受けて発足した早大オリ・パラセンターは、「地域の人々のオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツに対する興味・関心を高め、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けての機運を盛り上げること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 1)を目的としている。平成 28 年度の事業体制としては、岩手県、広島県、熊本県の教育委員会と連携して、オリンピック・パラリンピック教育の推進を行なった。
- 2) オリンピック教育に関する実践報告としては、例えば根本(2015)、木村ほか(2015)、宮崎(2012)、吉中・海野(2009)がある。パラリンピック教育に関する実践報告としては、鳥居ほか(2017)、鳥居・加藤(2017)、平井(2017)がある。さらに、オリンピック・パラリンピック教育を融合させた取り組みとして濱田・日野(2016)や池田(2016)がある。また、雑誌『体育科教育』におけるオリ・パラ教育に関する連載「オリンピック・パラリンピックを教育の場に活用するために」の記事は、以下の通りである(表 4)。

表 4: オリンピック・パラリンピック教育に関する『体育科教育』の連載記事一覧

執筆者	巻(号)	タイトル
宮崎明世	64(4)	オリンピック・パラリンピック教育とは
真田久	64(5)	日本におけるオリンピック教育(1964 東京 1998 長野)
宮崎明世	64(6)	世界のオリンピック・パラリンピック教育
真田久 荒牧亜衣	64(7)	オリンピック・パラリンピック教育の全国展開に向けて
上田隆司	64(8)	小学校の学校行事の中での取り組み
壘山繁善	64(9)	台東区の取り組み 学校・地域の特色を生かして
長岡樹	64(10)	中学校における体育理論の実践
赤平光秀	64(11)	宮城県の取り組み
大林太朗	64(12)	京都府の特色ある取り組み 「スポーツごころ」を育む
物部倫明	65(1)	福岡県におけるオリンピック・パラリンピック教育
山室俊浩 川崎真美	65(2)	東京都のオリンピック・パラリンピック教育
真田久	65(3)	2020 年以降も続くオリンピック・パラリンピック教育を

3) 文部科学省(2016)には、オリ・パラ教育に関して以下のように明記された。

小学校

オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実については、児童の発達段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の在り方について改善を図る。

中学校

スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値等の内容等について改善を図る。

高等学校

スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、

知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値及びドーピング等の内容等について改善を図る。

4) 実施校に関しては、各教育委員会を通じて、既存のカリキュラムにオリンピック・パラリンピック教育のプログラムを組み込んでいただくことを了承いただいた学校を選定した。オリンピック・パラリンピアンへの派遣に関しては、各県教育委員会を通じて、各校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践の計画に基づいたオリンピック・パラリンピアンへの希望調査を実施して選定した。

引用参考文献

- ・ 赤平光秀(2016) 宮城県の取り組み、体育科教育、64(11)、58-61
- ・ 濱田圭、日野克博(2016) 教科横断的な学習によるオリンピック・パラリンピック教育の実践、愛媛大学教育実践総合センター紀要、34、48-61
- ・ 池田延行(2016) オリンピック・パラリンピック教育を志向した陸上運動の授業づくり、国士舘大学体育研究所報、35、35-38
- ・ 宮崎明世(2012) 高等学校におけるオリンピック

- 教育の実践研究、筑波大学体育科学系紀要、35、91-101
- ・ 宮崎明世 (2016a) オリンピック・パラリンピック教育とは、体育科教育、64(4)、60-63
 - ・ 宮崎明世 (2016b) 世界のオリンピック・パラリンピック教育、体育科教育、64(6)、62-65
 - ・ 文部科学省 (2016) 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm
 - ・ 物部倫明 (2017) 福岡県におけるオリンピック・パラリンピック教育、体育科教育、65(1)、74-77
 - ・ 長岡樹 (2016) 中学校における体育理論の実践、体育科教育、64(10)、62-65
 - ・ 内閣府 (2015) 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査、
<http://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/index.html>
 - ・ 根本文雄 (2015) 特別支援教育におけるオリンピック教育の実践、スポーツ教育学研究、34(2)、39-44.
 - ・ 大林太朗 (2016) 京都府の特色ある取り組み：「スポーツごころ」を育む、64(12) 64-67
 - ・ 真田久 (2016) 日本におけるオリンピック教育 (1964 東京 1998 長野)、体育科教育、64(5)、74-77
 - ・ 真田久 (2017) 2020 年以降も続くオリンピック・パラリンピック教育を、体育科教育、65(3)、58-61
 - ・ 真田久、荒巻亜衣 (2016) オリンピック・パラリンピック教育の全国展開に向けて、体育科教育、64(7)、66-69
 - ・ 壘山繁善 (2016) 台東区の取り組み：学校・地域の特色を生かして、体育科教育、64(9)、74-77
 - ・ 友添秀則、深見英一郎、吉永武史、岡田悠佑、根本想、竹村瑞穂、小野雄大、青木彩菜、鈴木康介 (2017) 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み：教員セミナー・ワークショップおよび市民フォーラムの事業を中心に、スポーツ科学研究、14、57-71
 - ・ 鳥居照久、加藤真弓、東郷憲二郎、木村元則、中村尚平、舟橋啓臣 (2017) 地方におけるパラリンピック教育の実践、愛知医療学院短期大学紀要、8、59-64
 - ・ 鳥居照久、加藤真弓 (2017) 本短期大学における障がい者スポーツ関連教育展開についての一考察、愛知医療学院短期大学紀要、8、49-56
 - ・ 上田隆司 (2016) 小学校の学校行事の中での取り組み、体育科教育、64(8)、62-65
 - ・ 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター (2016) 平成 28 年度スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書
 - ・ 山室俊浩、川崎真美 (2017) 東京都のオリンピック・パラリンピック教育、体育科教育、65(2)、62-65
 - ・ 吉中孝志、海野勇三 (2009) 実践記録：中学校体育科におけるオリンピック教育の試み、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、27、59-70
 - ・ 木村華織、黒須雅弘、田中望、出口順子 (2015) 「競技祭」を教材としたオリンピック教育の実践教育活動、東海学園大学研究紀要、20、157-175